

次号予告

特集 資源・エネルギーと環境問題への多面的アプローチ

- 素材のリサイクルポテンシャルと環境負荷低減量の推計 ……松野泰也 (東京大学)
より良い高速増殖炉サイクル実現に向けた OR 手法の活用 ……塩谷洋樹 (日本原子力研究開発機構)
新エネルギー発電電力取引とリスクヘッジ ……山田雄二 (筑波大学)
望ましい CO₂ 濃度安定化目標 ……小田潤一郎 (地球環境産業技術研究機構), 他
排出権取引制度と市場設計 ……前田 章 (京都大学)
2次形式の調整費用を考慮した代替的な環境政策について
……………後藤 允 (早稲田大学), 高嶋隆太 (東京大学), 辻村元男 (龍谷大学)

編集後記

- 個人的には暖冬の方が好きですが、海水温度が上昇して生態系に影響が出ているのは悲しいことです。最近旅行に行った沖縄の海では、サンゴ礁がすっかり白骨化していました。IBMはグリーン調達、省エネ製品の開発、社内のエコ活動などで環境に取り組んでいますが、温室効果ガス対策にも本腰を入れ始めました。組織的にどこまで実行できるか見ものです。
- 今回は一企業の事例を集中して取り上げる特集の2回目ですが、1回目は実に11年も前です。もっと頻繁にこういう特集があってもよいと思います。ご協力いただける企業の方は、機関誌編集委員会までご一報ください。
- IBMを取り上げることになったのは、編集委員会の企画会議である委員が何げなく発した、「IBMの特集なんて面白いんじゃない。IBMなら大きいから宣伝っぽくならないし」という一言がきっかけでした。

このときは躊躇しましたが、私にとって社内のOR事例を広く知る機会にもなり、担当を引き受けてよかったと思っています。翻訳担当に当たった委員の皆さんは本当にご苦労様でした。

●収録した5編に、東京基礎研究所からの論文がありません。IBMの研究所の中で、東京、チューリッヒ、インドには社内事例がほぼ皆無なのです。社内の競争ファンドが米国に集中する傾向があるのは事実ですが、それにしても社内案件に関わっていないのは反省点です。

●IBM研究部門の人数が3千弱。それに対しIBMの社員数が35万強。つまりIBMの研究員は1%弱ということになります。これをもって、「研究員は100倍の投資対効果のある仕事をせよ」という無理なことを言う人がいて困ります。特にサービスビジネスでORを使っていかにテコを効かせられるかが課題です。(岡野裕之)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 山下英明(首都大学東京)

委員 池上敦子(成蹊大学), 岡野裕之(日本アイ・ビー・エム(株)), 木村新之介(東京ガス(株)), 栗田佳文(防衛省), 高野正次(日本電信電話(株)), 齋藤彰一(株構造計画研究所), 高嶋隆太(東京大学), 田島博之(秀明大学), 田村一軌(財鉄道総合技術研究所), 田村亮二(キャノンシステムソリューションズ(株)), 豊泉 洋(早稲田大学), 生田目崇(専修大学), 根本俊男(文教大学), 廣津信義(順天堂大学), 増田浩通(東京工業大学), 村井雅彦(株東芝), 八木恭子(東京大学), 渡邊 勇(財電力中央研究所)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成20年3月号 第53巻 第3号 通巻567号

代表者 青木利晴

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

<http://www.orsj.or.jp/>

編集人 山下英明

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)へ